

これまでのプログラムを振り返って

西田和奏

私は、少人数でのディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語の能力を向上させたい、大学で学んでいる国際関係の理解を深めたい、埼玉親善大使としてオハイオ州の人びとに埼玉県の魅力を紹介していきたい等の理由により、OSGS プログラムに応募しました。本プログラムの内容やこれまでの授業を通じて感じたことをご紹介します。

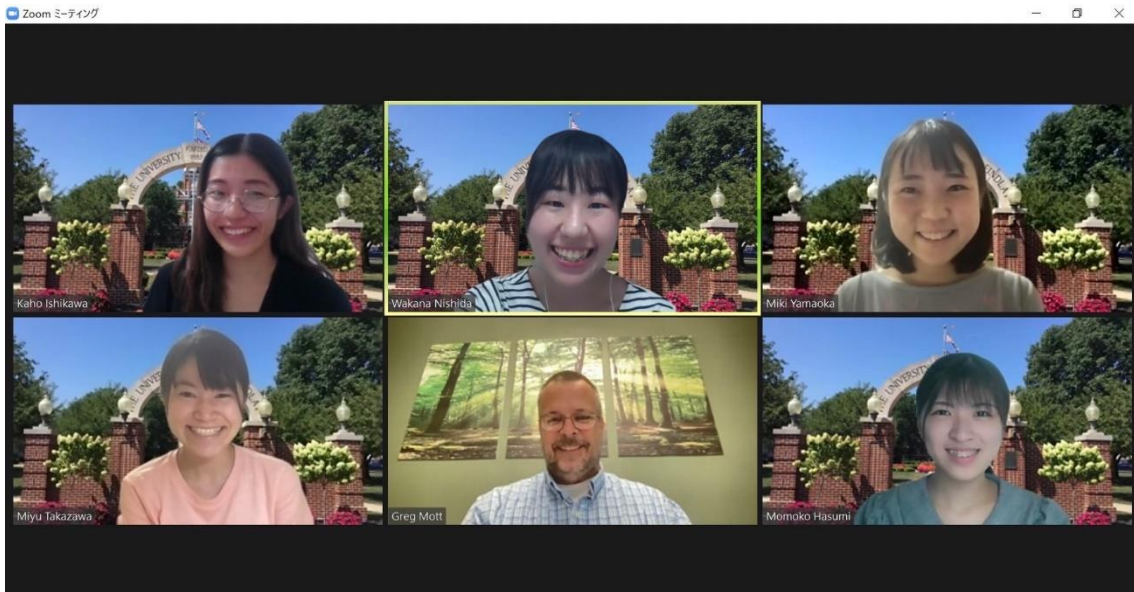
前期の OS GS プログラムでは、フィンドレー大学モット教授の指導の下、「日米の新型コロナウイルスへの対応の違い」について学んでいます。授業は一方的な講義ではなく、プログラム初日から参加者は積極的に英語で話す機会があるものでした。最初は緊張しましたが、参加者が5人と少数であり、モット教授も一人一人の学生に向き合ってくださいするため、積極的に話すことができました。また授業では、プレゼンテーションの作成方法や学術的な参考文献の見分け方についても学びました。私は本プログラムを受講するまで、英語でプレゼンテーションを行う機会があまりなかったため、こうした内容まで学べることはとても有益でした。

授業の他に、フィンドレー大学に在籍する学生との交流も行います。先日の交流会では、新型コロナウイルスが生活に与えた影響や対応について議論しました。日米間で異なる考え方や対応がある一方、学生同士であるからこそ共感できる部分も多く、議論の時間はあっという間に過ぎました。私はここで知り合った学生たちと授業後も SNS を通じて交流を深める中で、埼玉県や日本の魅力についても伝えています。

OSGS プログラムは隔週1回、夜に行われるため、勉強や仕事と両立が可能です。新型コロナウイルスが世界中で蔓延し、海外留学が容易ではない現在、日本にいながらアメリカの大学の授業を履修できることは、とても貴重であると思います。私は新型コロナウイルスの影響で、今年大学の交換留学に行けなくなってしまったため、本プログラムに参加する機会をいただけたことに感謝しています。英語で授業を履修できること、現地大学の学生と交流できること、志高い他の参加者たちから刺激をもらえること等有意義な経験をさせていただいていると思います。

本プログラムもこれまで4回分の内容が終わりました。今後は日米の新型コロナウイルスへの対応の違いについてさらに調査を進めプレゼンテーション作りに励むと共に、フィンドレー市長やフィンドレー市の医療従事者の方へのインタビューを通じて多くのことを吸収していきたいです。

・前期プログラム参加者とモット教授



・授業の様子

Zoom ミーティング

Individualism vs. Collectivism

High IDV	Low IDV
<p>Indicates a more individualistic society with weak interpersonal connections among those who are not part of core "family"</p> <p>Places value on people's time, privacy, and freedom</p> <p>Expectation that individuals are rewarded for hard work, weaker workers may be fired.</p> <p>Ability and knowledge admired</p> <p>Ordering/Telling avoidance</p>	<p>Indicates a more collectivist society where loyalty to the group and belonging outweighs individual preferences and personalities</p> <p>Emphasis on wisdom - building skills and becoming master of something</p> <p>Age or seniority admired</p> <p>People work for intrinsic rewards (satisfaction, happiness)</p> <p>Maintaining group harmony (Status Quo) overrides other moral issues</p> <p>Authority accepted without questioning, little to know conferring with "underlings"</p> <p>"Face" is protected</p>